



卵巣のう腫とは どんな病気？

20代女性。子宮頸がん検診を受けたところ、「卵巣のう腫の疑いがある」と言われました。受診を勧められましたが不安です。どのような病気でしょうか。

回答者

山梨大付属病院産婦人科
端 晶彦医師



はし・あきひこさん 1986年山梨医科大(現山梨大医学部)卒。上野原町立病院、山梨赤十字病院、米・テキサス大MDアンダーソンがんセンターを経て、2001年から山梨大付属病院。現在は同大医学部准教授、医療福祉支援センター長(産婦人科教室)。日本産婦人科学会認定医、日本臨床細胞学会専門医。滋賀県出身。

分かります。より詳しく調べるためにMRI(磁気共鳴画像装置)検査を行うこともあります。腫瘍の種類を推定できますし、良性悪性の鑑別にも力を発揮します。また

血液の腫瘍マ

—卵巣のう腫とは。

卵巣は子宮の左右に一つずつあり、通常は約3センチの大きさです。卵巣の中に液状の成分がたまって腫れた状態が卵巣のう腫です。たまる液状の成分により種類が分けられますが、基本的には良性卵巣腫瘍です。排卵後などに卵巣内に液体がたまり、数週間自然に消えていく「貯留のう胞」と呼ばれるものもあります。これは本来、腫瘍ではありませんが、超音波検査上は区別が難しく、卵巣のう腫と指摘されることがあります。

—卵巣腫瘍とは。

卵巣には非常に多くの種類の腫瘍が発生します。大きく「良性」「悪性」「境界悪性(低悪性)」の三つに分類され、さらに多くの種類に分類されます。卵巣腫瘍と診断された多くの場合は良性です。内部に液体を含んだのう胞性腫瘍は大半が良性ですが、中に硬い充実部分が存在する場合には悪性または境界悪性

腫瘍の疑いが出てきます。

—腫瘍の症状はありますか。

いずれの卵巣腫瘍もほとんど症状はありません。婦人科や内科での超音波検査などで偶然見つかることが少なくありません。

症状の現れにくい腫瘍 大半が良性、経過を観察

ん。卵巣腫瘍が大きくなれば、おなかが張って気付くこともありますが、また時には卵巣腫瘍の茎がねじれて激痛を起すこともあります。これを茎捻転といい、緊急手術になることが多いです。また子宮内膜症で卵巣にのう胞を形成することもあり、この場合は月経痛や性交痛といった痛みを伴うことがあります。

—悪性卵巣腫瘍について教えてください。

悪性卵巣腫瘍は卵巣がんです。卵巣がんにはその約9割を占める上皮性悪性腫瘍と5%ほどの胚細胞性悪性腫瘍があり、上皮性は50代以上の方に多く、胚細胞性は10〜20代の若い女性に見

に抗がん剤が効き、これから子どもを産みたい人は腫れている卵巣腫瘍だけ切除して子宮を残し、妊娠することも可能です。上皮性悪性腫瘍でも初期がんなどの条件が満たされれば、子宮を

—境界悪性とは。

良性の腫瘍と悪性の卵巣がんの中間の性質を持つている腫瘍のことです。摘出してしまえば生命に関わることは少ないですが、まれに再発や転移することもあり、慎重な管理が必要です。

—検査はどのように進めるのですか。

経膈超音波検査で腫瘍の大きさを調べ、心配し過ぎないで受診しましょう。

第1、3木曜日に掲載します